Press Release

令和８年10月19日
武雄河川事務所

令和８年６月出水において六角川の河川整備が効果を発揮
～家屋浸水をゼロに！！～

○令和８年６月24日から25日にかけて降り続いた雨により、六角川上流域の矢筈雨量観測所で、24時間雨量277mmを観測しました。

○六角川では、令和元年８月洪水以降の河川整備の実施により、新橋水位観測所の水位を約0.73m下げることができました。

○これにより、堤防の安全性の基準となる水位（計画高水位）以下となり、排水機場のポンプ運転を継続できたことで、家屋浸水被害を未然に防止しました。

○これらの事業効果を図に可視化して取りまとめましたので、別紙をご参照ください。

○今後も、六角川流域におけるさらなる浸水被害の軽減に向けて河川整備を進めるとともに、あらゆる関係者との協働のもと、流域全体の治水安全度の向上に取り組んでまいります。

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

【問い合わせ】
国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所　電話：０９５４－２３－７９３３
副所長　今村（いまむら）　正史（まさふみ）
流域治水課長　塚本（つかもと）　太一（たいち）

武雄河川事務所ホームページアドレス → https://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/

別紙

【六角川】
令和8年6月出水における河川整備の効果について

武雄河川事務所

令和8年10月19日

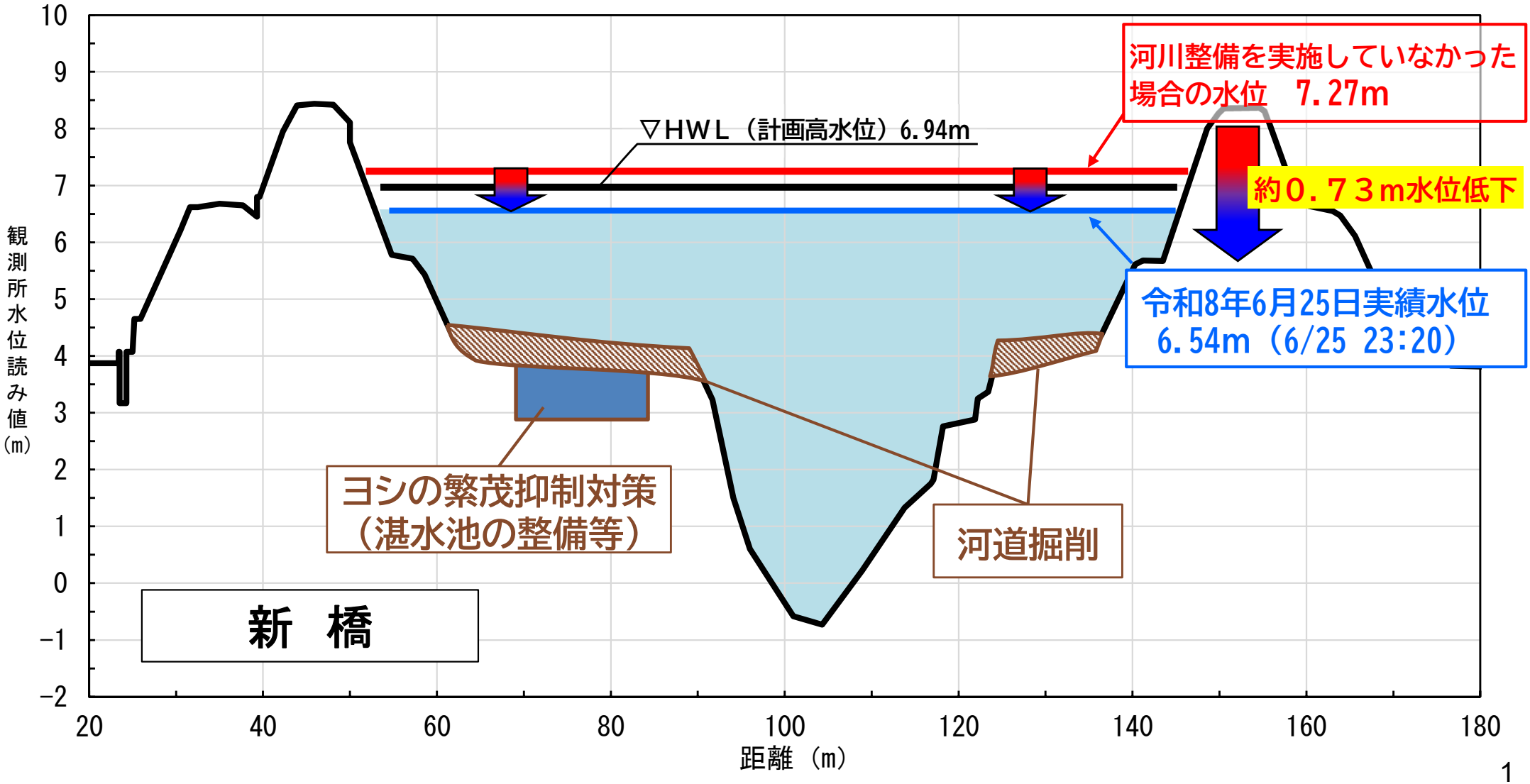
国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

河川整備による河川水位低減効果

河川整備（河道掘削及びヨシ繁茂抑制対策（湛水池の整備等））により洪水が流れやすくなり、河川整備を実施しなかった場合と比べ、新橋水位観測所の河川水位が約0.73m下がった。これにより、堤防の安全性の基準となる水位（計画高水位）以下となり、排水機場のポンプ運転を継続することが可能となった。

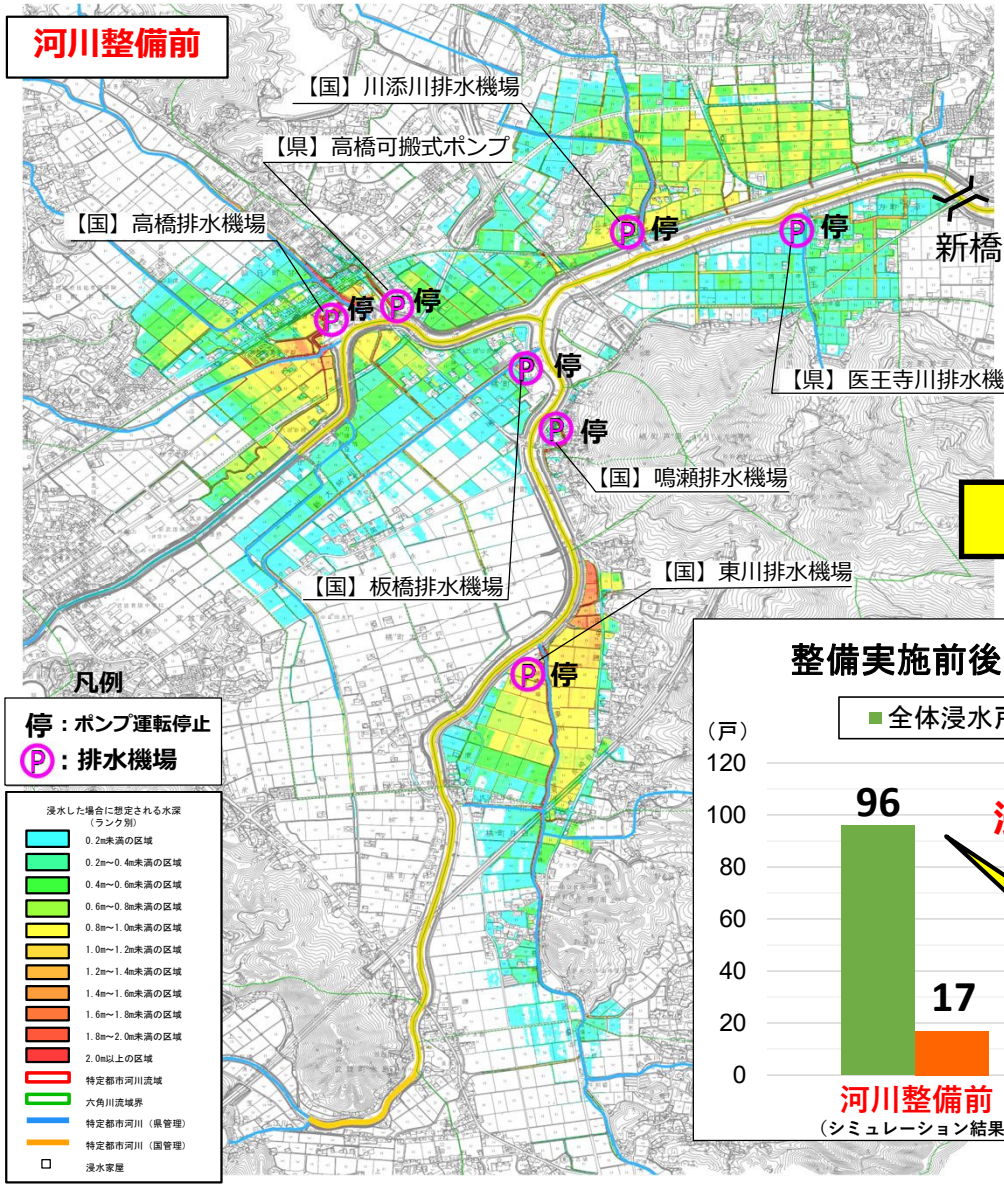
新橋水位観測所横断図（六角川24k000付近）



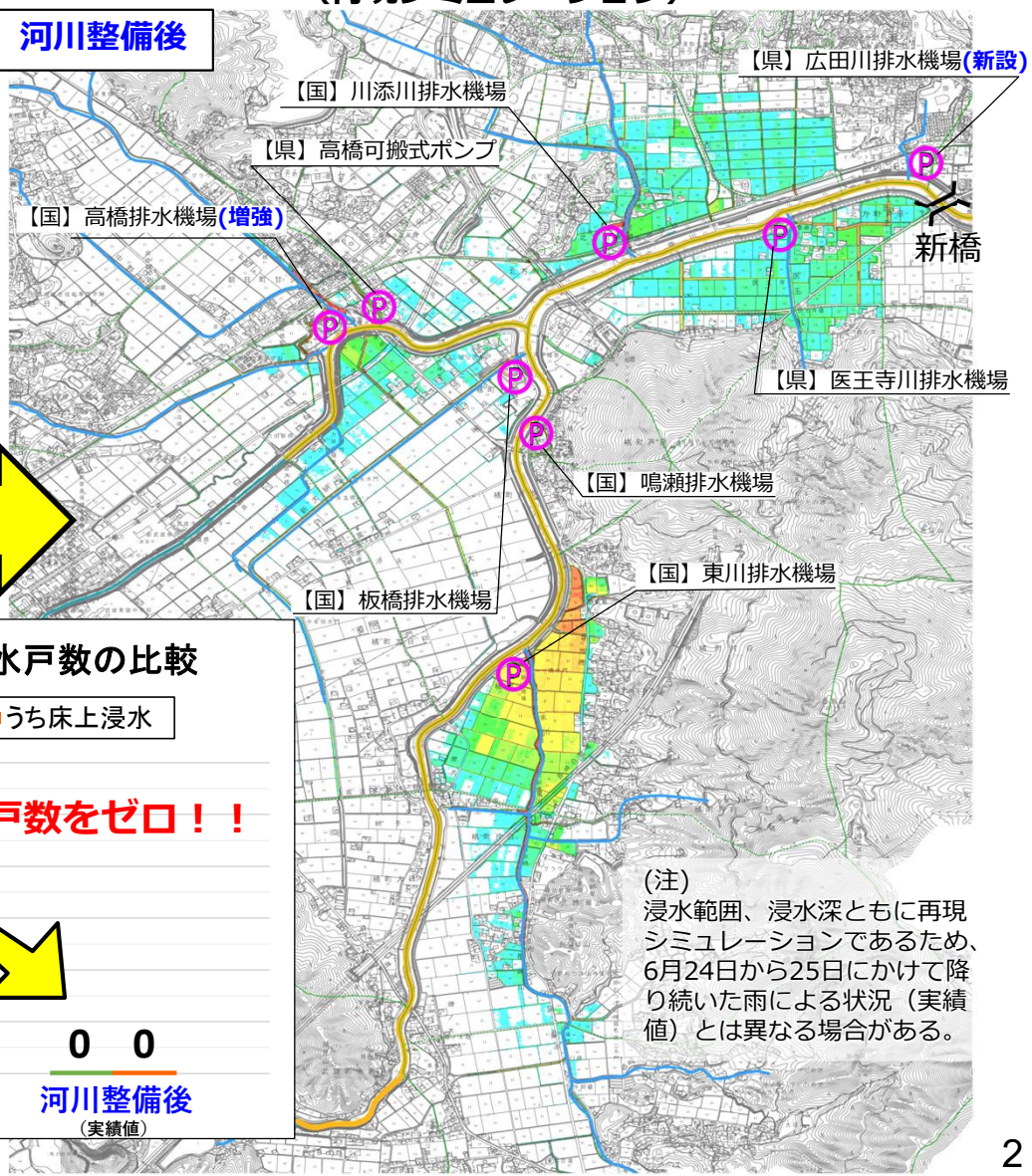
河川水位低減効果により家屋浸水被害を回避

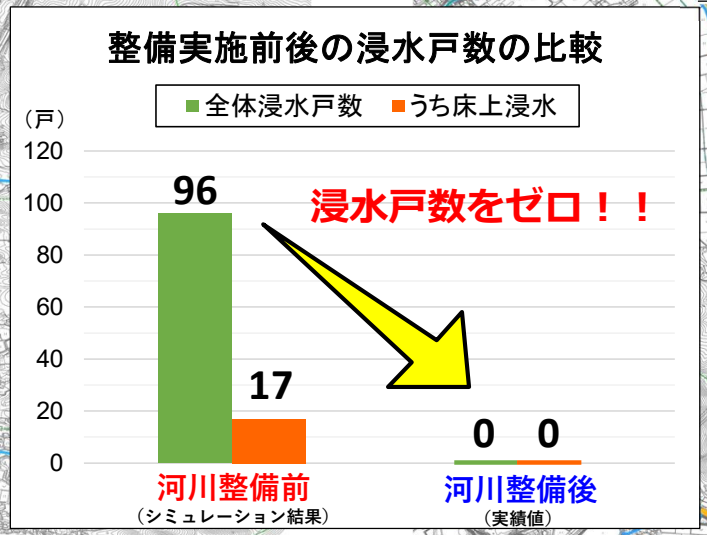
前ページのとおり河川水位が下がり、排水機場のポンプ運転を継続できたことで、家屋浸水被害を未然に防止した。

もしも河川整備を実施していなかったら（反実仮想シミュレーション）



河川整備をしていたので（再現シミュレーション）





(注)
浸水範囲、浸水深ともに再現シミュレーションであるため、6月24日から25日にかけて降り続いた雨による状況（実績値）とは異なる場合がある。

六角川流域の「流域治水対策」有効性の定量化に向けた新たな試み

令和8年6月出水では、六角川上流域の矢筈雨量観測所で24時間雨量277mmを観測するなど、令和3年出水以降比較的大きい雨となったが、令和元年、3年出水を受け実施してきた河川整備により、河川の水位を低下させ、排水ポンプの連続運転を可能にし、家屋浸水被害を未然に防止した。

しかしながら、六角川の河川整備は道半ばであり、令和３年と同規模の出水が発生した場合、流域内の約４５０戸が床上浸水となると試算されている。

これらに鑑み、令和５年度末に六角川流域の武雄市、嬉野市において、九州で初めてとなる特定都市河川指定を行い、令和６年度末には、「六角川流域水害対策計画」を国･県･市共同で策定したところである。

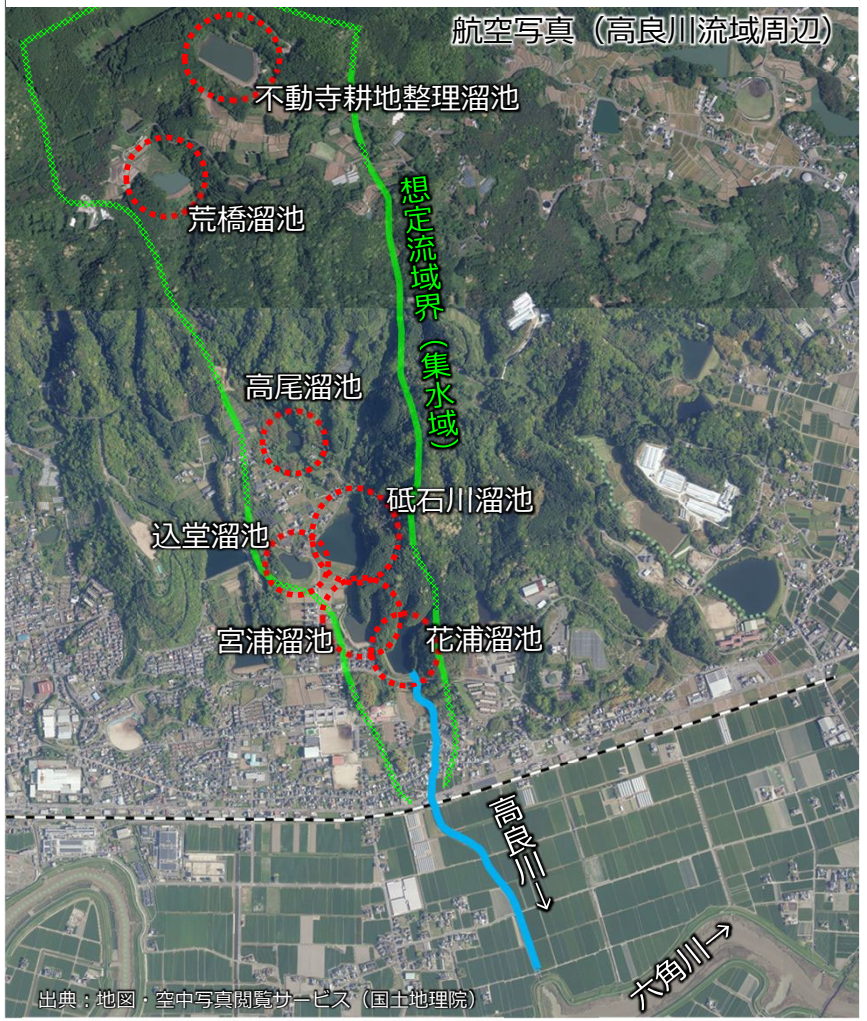
現在、同計画を推進するべく、測量、地質調査等を実施するとともに、地元説明会の開催や住民参加型の現地調査を通じて、具体的な対策の検討を進めているところである。

また、田んぼダムや溜池の活用といった既存インフラを利用する流域治水対策の取組が進められている。

これらの取組をさらに展開していくためには、ご協力いただく方々にその効果を定量的にお示しし実感してもらうなどして、地域の機運を一層高めていくことも重要である。

このため、溜池の施設改造が予定されている六角川左支川高良川流域をモデルケースに、「溜池活用による内水被害の軽減」の定量化を目指した検討を進めているところである。

高良川流域での溜池位置図



今後、このような「小流域単位での溜池等の活用の可能性検討」を進め、市町の浸水メカニズムの特性に応じて展開していくことで、関係機関等の積極的な参加への動機付けとなる「流域治水」を模索していく。

参考資料

目　次

◎ 令和8年6月出水の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5ページ～
　　1．降雨の概要
　　2．水位の概要

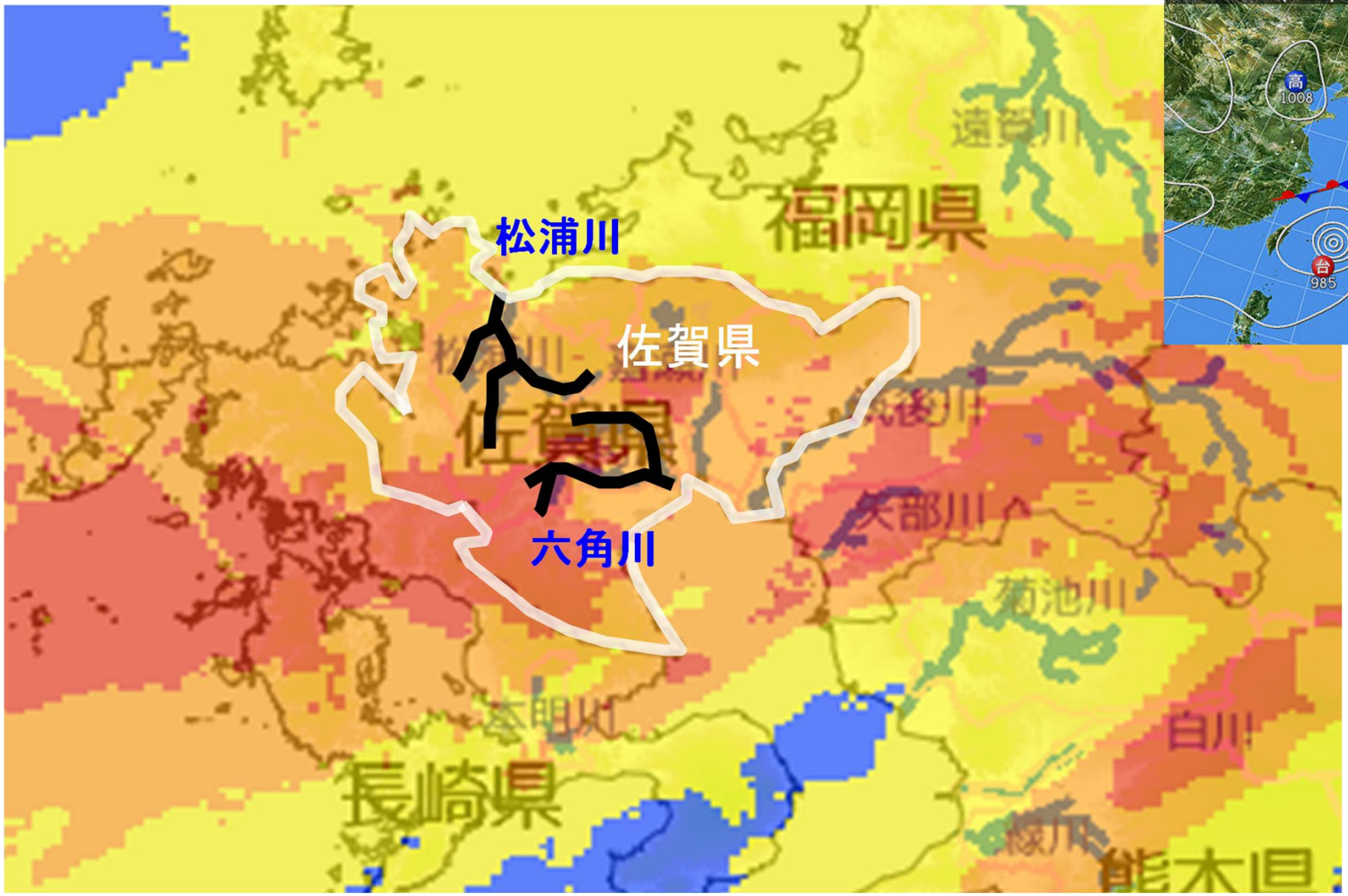
◎令和元年以降進めてきた河川整備・・・・・・・・・・11ページ～

1．降雨の概要（佐賀県内）

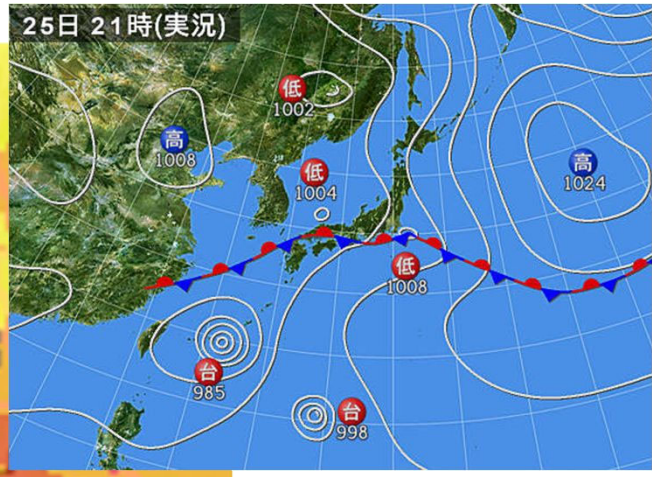
参考資料

○6月24日から降り続いた雨により、佐賀県西部を中心に、多いところで48時間雨量が約400mmを記録。

令和8年6月24日12時～26日12時（48時間累積雨量）



天気図

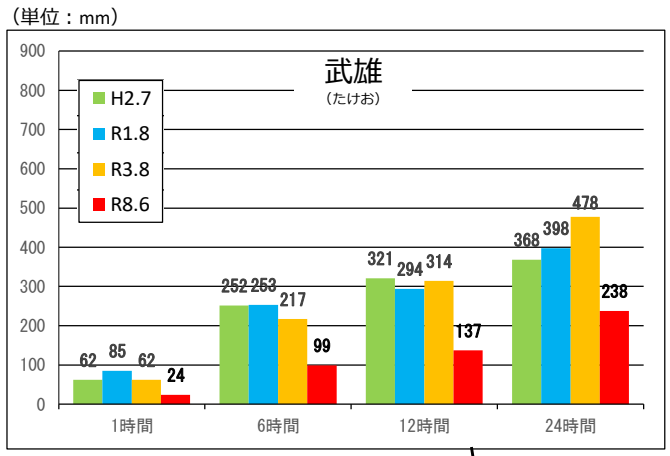


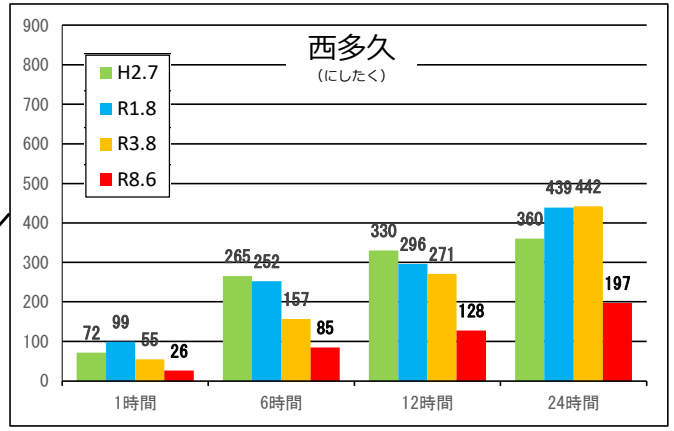
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

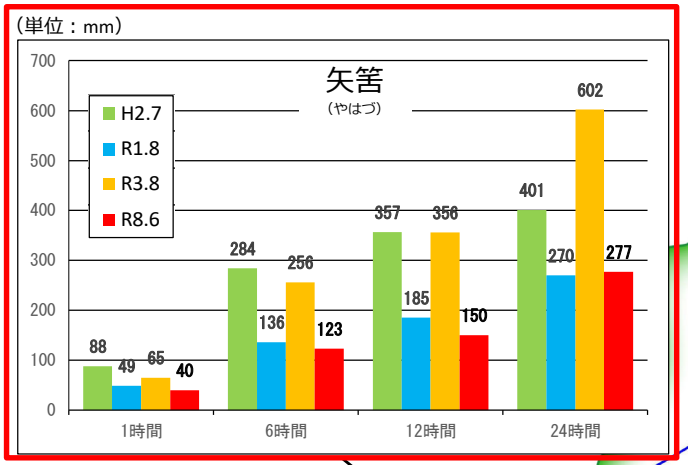
1．降雨の概要（六角川流域）

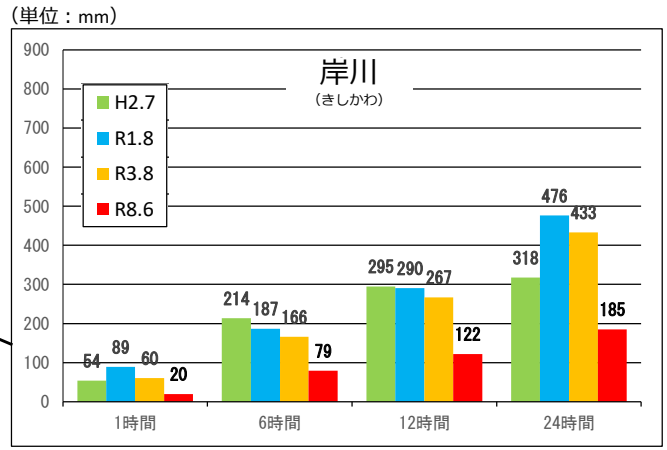
参考資料

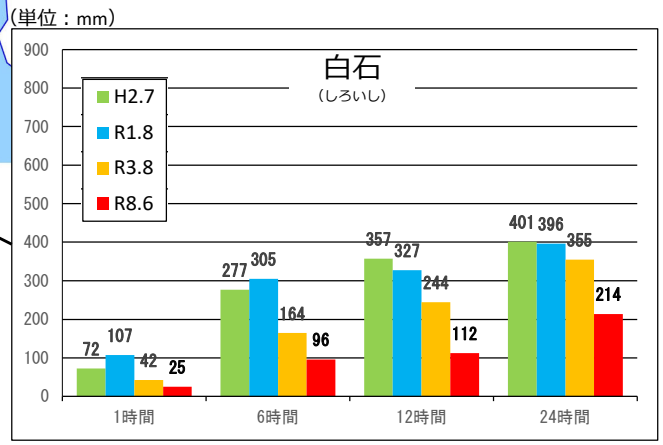
六角川上流域(矢筈雨量観測所)では、24時間雨量が277mmを記録し、令和元年8月出水の雨量よりも大きい降雨となった。









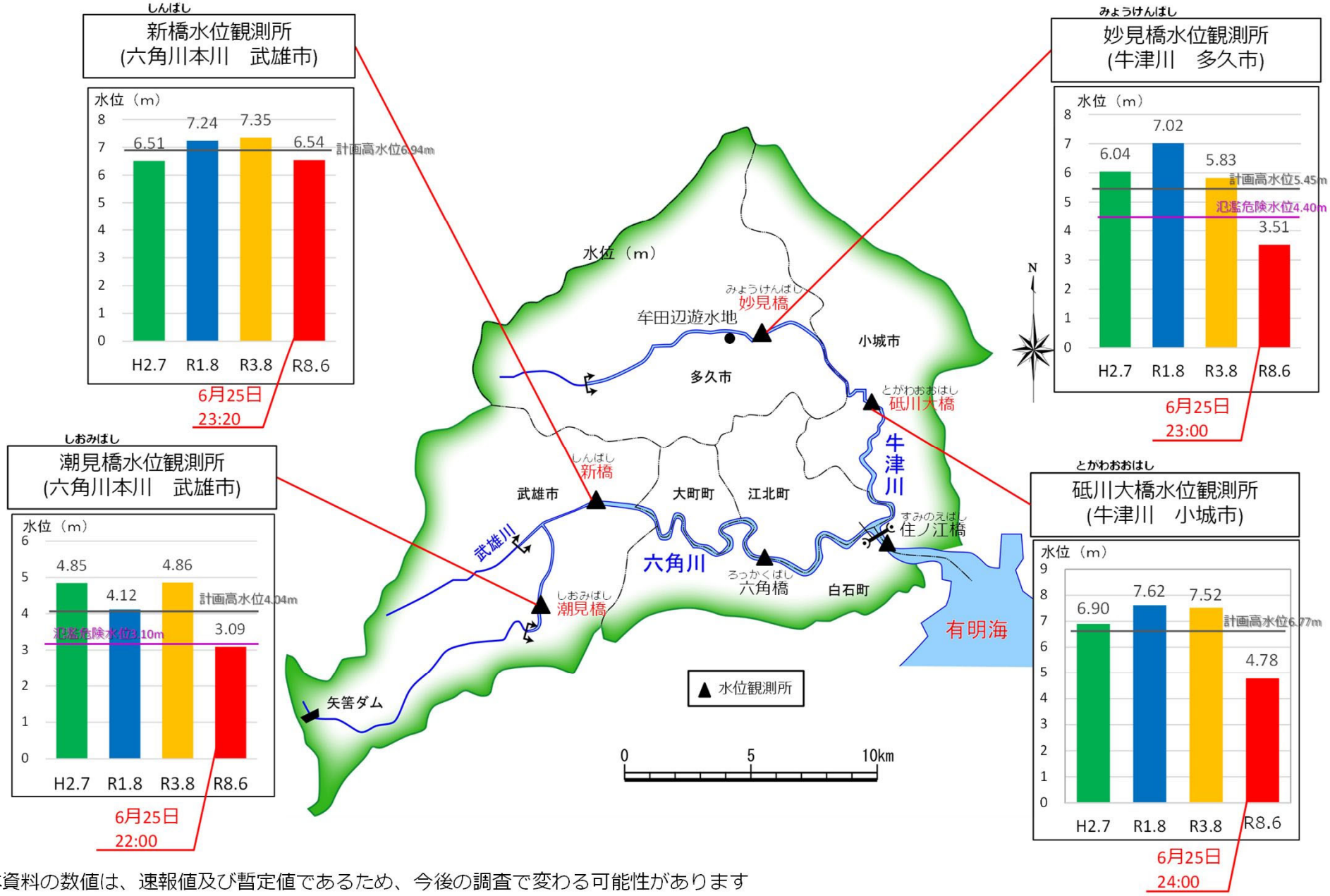


※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

2．水位の概要（六角川流域）

参考資料

○六角川の潮見橋水位観測所において、氾濫危険水位3.1mに、あと1cmまで迫る3.09mを観測。（R8.6.25　22時00分ピーク）
○また、新橋水位観測所においては、計画高水位6.94mに、あと40cmまで迫る6.54mを観測。（R8.6.25　23時20分ピーク）

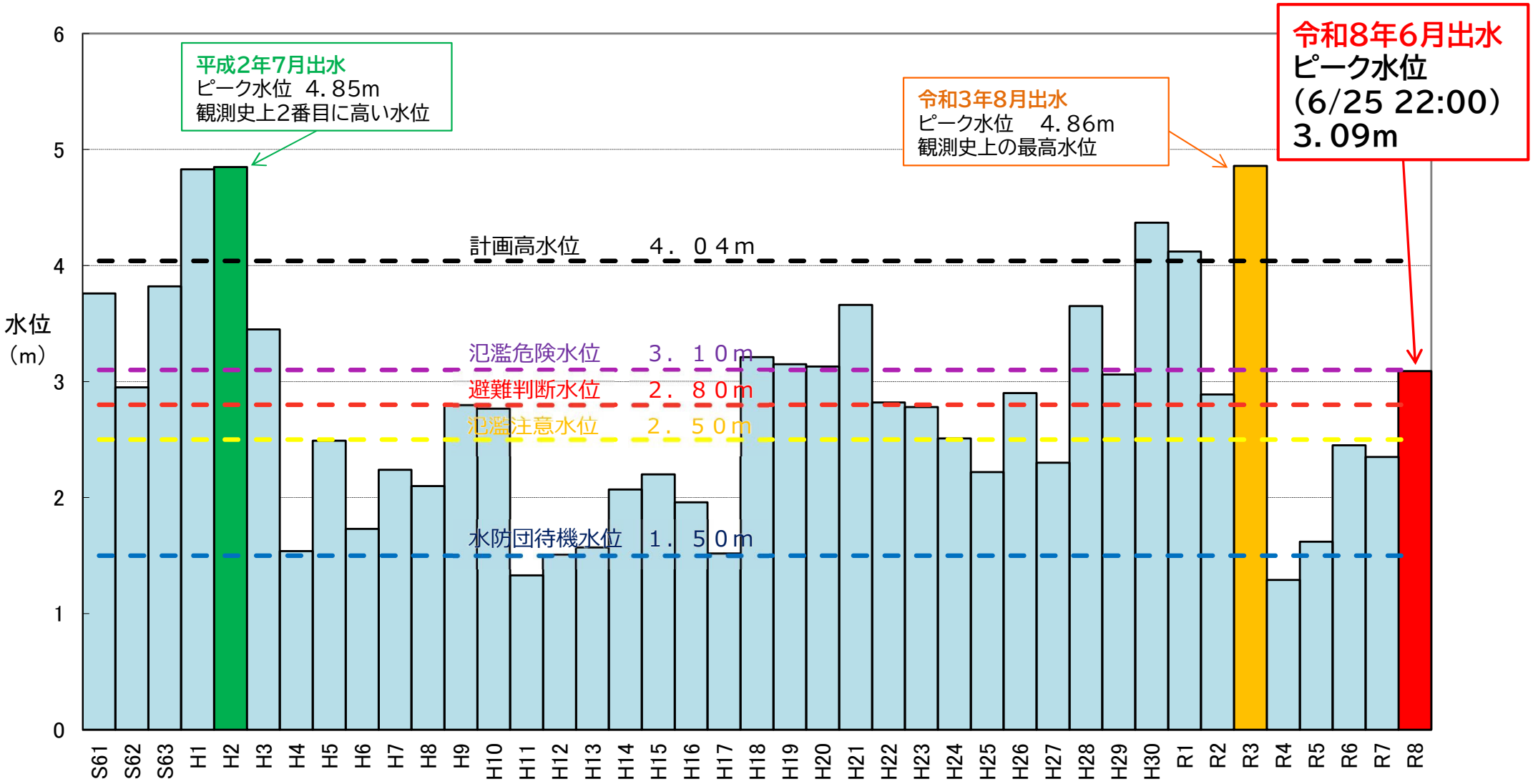


※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

2．水位の概要（潮見橋水位観測所：六角川水系六角川）

参考資料

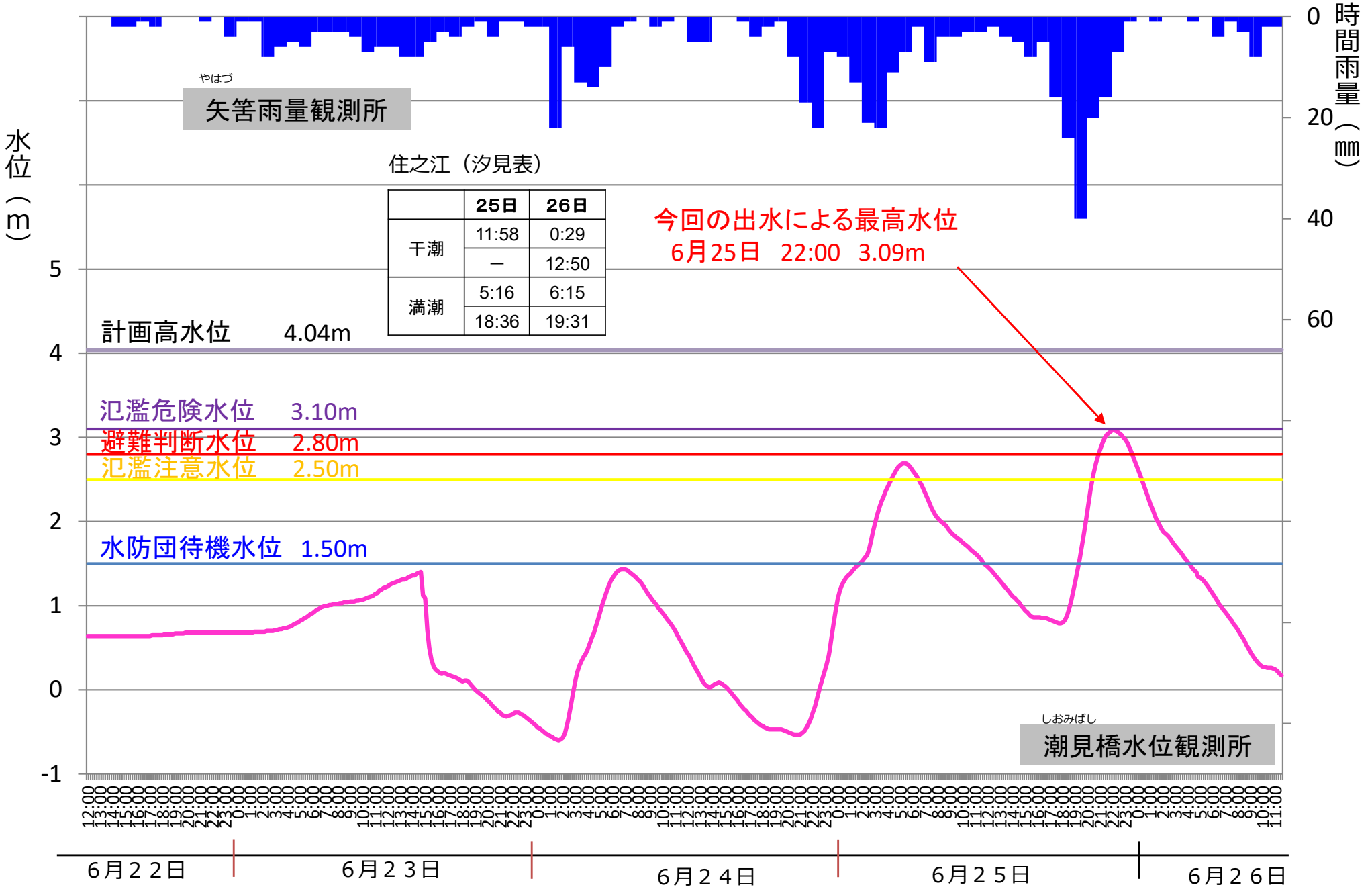
年最高水位比較図



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

２．水位の概要（潮見橋水位観測所：六角川水系六角川）

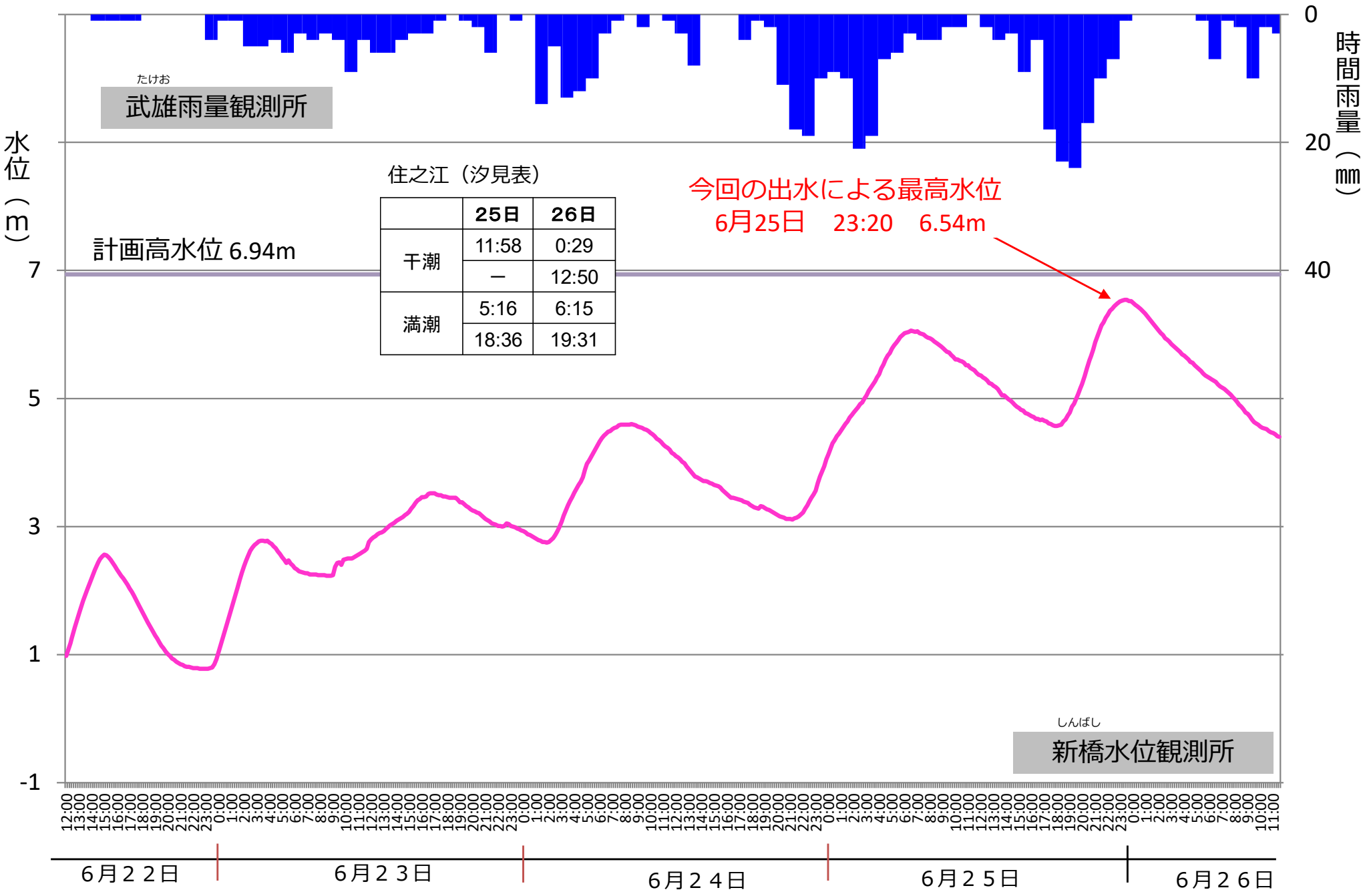
参考資料



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

2．水位の概要（新橋水位観測所：六角川水系六角川）

参考資料

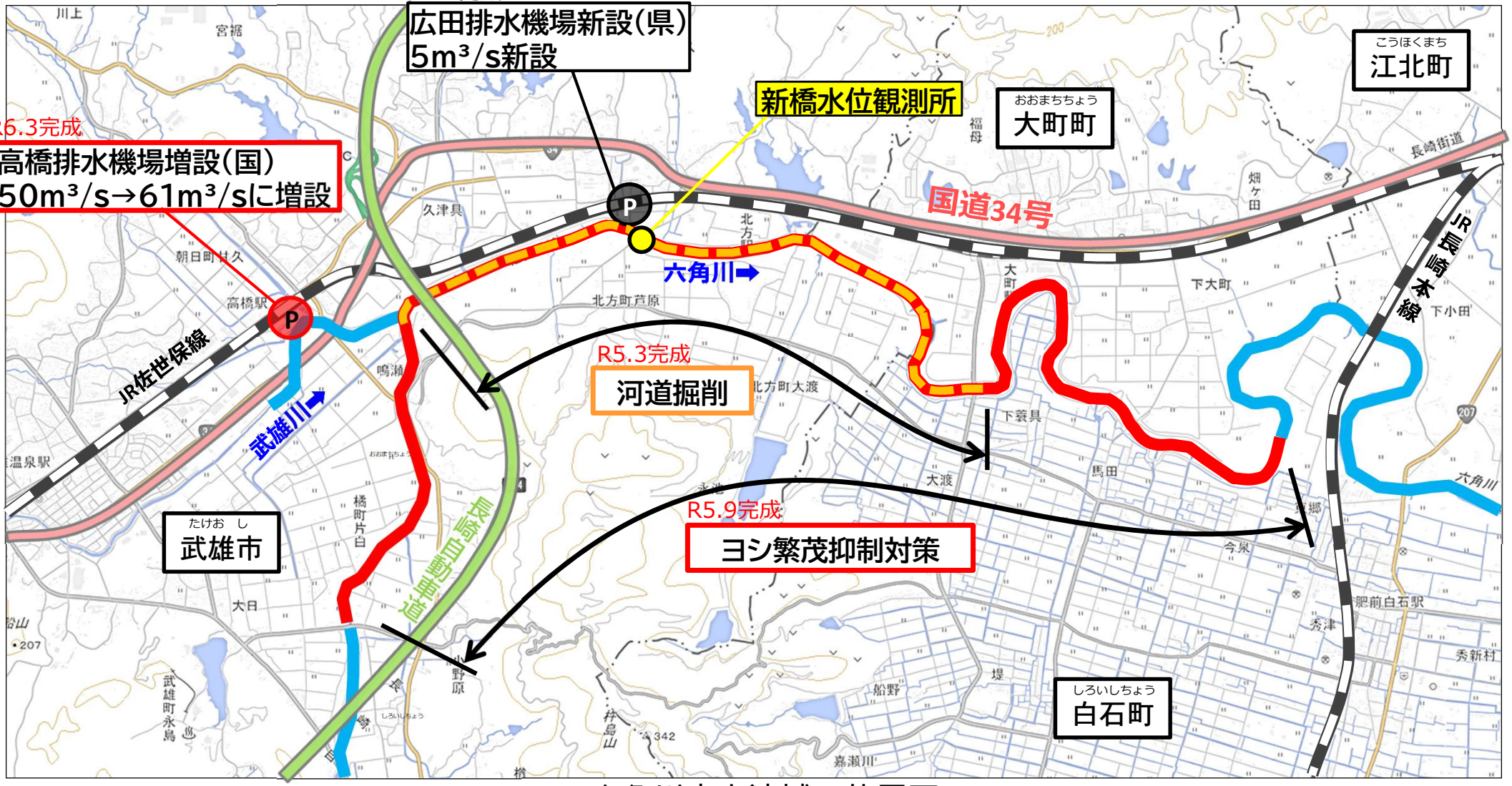


※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

3．令和元年以降進めてきた河川整備

参考資料

○令和元年、3年出水を受け、六角川水系では浸水被害の軽減に向けて河川整備を進めている。
○これまでに、六角川では高水敷の河道掘削、ヨシ繁茂抑制対策（湛水池の整備等）、高橋排水機場の増強（以上、国）、広田川排水機場の新設（県）を実施した。



六角川中上流域の位置図

3．令和元年以降進めてきた河川整備

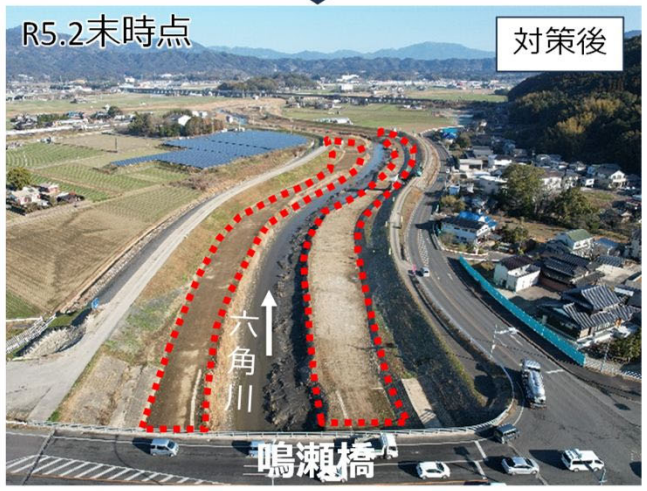
参考資料

河道掘削及びヨシ繁茂抑制対策

六角川中流域の流下能力不足区間の水の流れをスムーズにするため、下記に示す写真のとおり、高水敷の河道掘削、高水敷に群生するヨシ繁茂抑制対策（湛水池の整備等）を実施した。

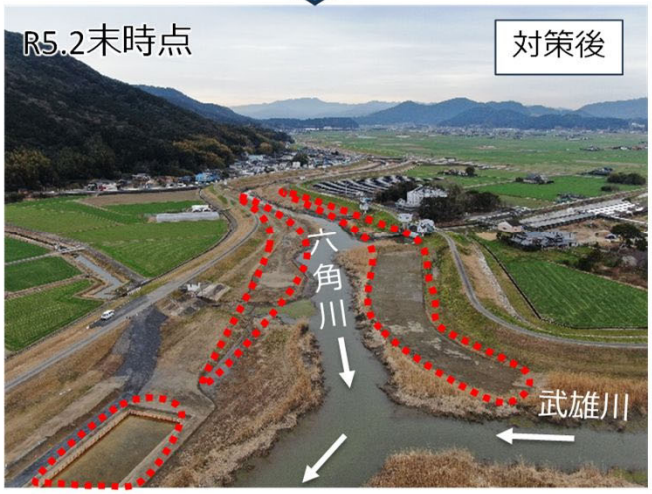
●六角川27k付近（鳴瀬橋付近）





●六角川26k付近（武雄川合流点）





●六角川19k付近（大渡地区）



